

臨床疫学研究室

室長 是恒之宏

臨床研究において、エビデンスレベルの高い prospective randomized trial と疫学研究は 2 本柱である。Prospective randomized trial は最も質の高い研究とされるが、治療や成績評価にバイアスは少ないものの、組み入れる症例の選択バイアスが大きく、実臨床の成績とかけはなれた結果が示されることも少なくない。我々の領域、循環器内科では近年新しい経口の抗凝固薬開発が盛んであり多くの randomized trial がなされてきた。参加する研究者はその多くが抗凝固薬使用に長けた医師であり、また被験者もコンプライアンスが良好で出血リスクも低い患者が選定されている。このような条件で得られた結果は、比較試験の質としては高いものの、実臨床における real world を反映していない可能性がある。一方、疫学研究、観察研究は治療の選択は医師や患者にまかされているが、患者のコンプライアンスも含めた実臨床での実態を示すものとして、ランダム化比較試験とともに臨床研究の一翼を担う。日本では、従来より基礎的医学研究は欧米に匹敵するすばらしい研究が多い一方、大規模臨床研究のような臨床的エビデンスの確立はかなり遅れていると言わざるを得ない。近年、大学等の研究機関においても、ようやく疫学研究も含めた大規模臨床研究により日本におけるエビデンスの確立がなされるようになってきた。

大阪医療センター臨床疫学研究室では、臨床疫学・アウトカムリサーチの実施基盤を確立し、データの集積・解析を行ないつつエビデンスを形成し、コストベネフィットを解析する形態の臨床研究を行なっている。特に、循環器疾患診療に関する薬剤・機器臨床試験等。当院の政策医療の 1 つである循環器病の診療に役立つ臨床研究を推進している。また、全国多施設共同研究にも積極的に参加し、日本における EBM の確立に貢献してきた。平成 22 年度も、国立病院機構 EBM 推進のための共同研究を初め、厚生科研、循環器病委託研究などの公的助成や民間助成を得て、着実に成果を上げている。

【2010 年度研究計画報告】

1) 心房細動国際レジストリー GARFIELD 研究 (National Coordinator: 是恒之宏)

新規発症の脳梗塞リスクのある心房細動が実臨床でどのように治療されているのかを国際的に比較する研究である。これまでも国際的レジストリーはあったが、心房細動に限定したこのような大規模調査は初めてである。しかも、実臨床での治療薬選択やワルファリンコントロールの程度、新しい経口抗凝固薬時代前後での薬剤選択の変遷と脳梗塞、全身性塞栓症、出血合併症などのアウトカムを 2010 年より 1 年ごとに 4 コホート別々にフォローしていく予定である。今年度から来年度初めにかけて、まず第一コホートの登録をおこなっている。参加医師はこれまで多くのスタディーでは病院勤務の循環器内科医であったが、今回は実臨床でのデータを収集することが目的であり、一般内科医、開業医の方々を中心にしている。是恒は、この研究の National coordinator の役割を担っている。この研究のむずかしいところは新規発症の心房細動のみを登録することである。発症 6 週以内と限定されているが、ロンドンでの National coordinator meeting で、日本での事情、すなわち人間ドックで心房細動を始めて指摘され、その後紹介されてきた場合、すでに 6 週間を経過している場合も少なくないことを説明した。相談の結果、一般内科医を受診して確認した時点を心房細動の正式な診断日として差し支えないこととなった。研究計画の段階から参加することにより、日本の診療スタイルも考慮に入れたレジストリーの規準になったことは喜ばし

い。

2) 国立病院機構共同研究 EBM 推進のための大規模臨床研究 NHOAF.EXT 研究 (主任: 是恒之宏)

平成 16 年度より 3 ヶ年でおこなってきた NHOAF 研究を引き継ぐ形で平成 19 年度より開始された心房細動患者を対象とした研究。研究課題名は「心房細動による心原性脳塞栓予防における抗血栓療法—標準的医療の確立に向けて」。研究は 3 パートからなり、1) NHOAF 研究で登録された心房細動患者の予後調査を 1 年 3 ヶ月延長し、抗血栓療法と脳梗塞予防効果、出血合併症につき検討 (R)、2) より厳正なワルファリンコントロールをめざして、一定のルールを設け、投与量を調整。前向きにアウトカムを検討 (P)、3) 心房細動患者における脳梗塞合併例の遺伝的素因を検討し、より効率的な抗血栓療法の可能性を探る (G) を行なってきた。今年度はデータ収集最終年であり、来年度解析の予定である。

3) J-RHYTHM Registry 研究 (関西地区代表: 是恒之宏)

心房細動患者の日本における治療実態とアウトカム評価をおこなう大規模観察研究。平成 19 年度終盤から 20 年度初旬にかけて登録がおこなわれた。各地区で、人口比率に応じた登録症例数を設定し、関西地区では 900 例を目標とし予定どおりの登録が終了した。全国的にもすべての地区で登録が達成され、2009 年 6 月以降フォローアップを開始しており、今後のデータ集積が待たれる。

4) 文部科学省科学技術試験研究委託事業「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化 (血清サンプルおよび臨床情報の収集)」(分担: 楠岡英雄、院内責任者: 是恒之宏)

医療現場では、疾患の根本原因に対処する治療ではなく、経験則に基づいた対症療法的な治療が主流であったが、近年になり、個人の遺伝子多型のわずかな違いが疾患感受性、薬剤有効性、副作用発現の違いに影響を与えるという知見に基づいた新しい治療体系が重要視されている。今までは同一の診断を受けた患者集団を対象にした治療であったが、患者の遺伝子多型を識別することによって、個々の患者に適した治療を個別に提供すること (オーダーメイド医療) が可能になるからである。このような医療を実現化するには、数多くの疾患を対象とした DNA・血清サンプルを体系的に収集し、疾患と遺伝子や蛋白と関係を網羅的に解析する必要がある。これまでに約 30 万症例の DNA・血清サンプルを収集してバイオバンクを構築し、臨床情報のデータベース化を行ってきたところである。今後は、病態変化、薬剤応答性・抵抗性、副作用発現などを経年的に把握できるように、定期的な血清サンプルの収集を継続し、臨床情報を追跡調査してデータベース化を行う。新たに収集する血清サンプルは、これまでに収集した DNA・血清サンプルと合わせて保管、管理しつつ、研究試料として協力研究機関および外部研究機関に提供する。

このため、国立大学法人 東京大学、学校法人 岩手医科大学、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター、財団法人 癌研究会、学校法人 順天堂、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター、医療法人 徳洲会、学校法人 日本医科大学、学校法人 日本大学、国立大学法人 滋賀医科大学、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター、財団法人 結核予防会 複十字病院、株式会社麻生 飯塚病院が共同で業務を行う。学校法人 日本医科大学では、患者の追跡調査を継続し、血清サンプルと臨床情報を定期的に収集する。来年度は、来院をされていない方々の追跡調査を行うべく準備がすすめられている。

5) 国立病院機構共同研究 新たな治験活性化 5 年計画を踏まえた国立病院機構の治験・臨床研究のあり方に関する研究 (主任: 森下典子、分担: 是恒之宏)

国立病院機構において拠点医療機関に相当する 5 病院の共同により、治験・臨床研究の推進のための方策について実行・評価を行なう。2. 治験・臨床研究の質、実績に関する評価方法について検討する。3. 国立病院機構のネットワークを生かした拠点医療機関の活動を行い、相互連携を図る。22 年度は 21 年度に続いて各病院の取り組み状況と課題を明らかにし、21 年度で定めた目標の達成状況把握、病院間での連携強化を図ることに主眼をおいた活動を行い、2 回の班会議を

開催した。また、今年度が最終年度であるが、今後も国立病院機構として継続的な意見交換が必要であると考えられる。

6) 循環器病研究開発費 科学的根拠に基づいた急性心筋梗塞診療評価指標の基盤体制構築に関する研究 (分担: 楠岡英雄)

国立循環器病研究センターを研究主体とするレジストリーである。心筋梗塞、脳卒中は4疾患5事業にも含まれており、その診療プロセスやアウトカムの実態把握は重要かつ必須であるにもかかわらず積極的に取り組まれてこなかった背景がある。この研究では恒久的で普遍的なデータを収集するデータ集積システムを必要とするため先行研究と同じく日本臨床研究支援センターによるweb登録フォームを用いたインターネット登録システムを採用している。当院においては、循環器内科が急性心筋梗塞領域を、脳卒中内科と脳神経外科が脳卒中領域を担当し、それぞれの症例登録を行うこととした。症例は平成22年1月にさかのぼって登録作業をすすめている。

7) 国立病院機構共同研究 脳梗塞患者における抗血栓療法のリスク・ベネフィットに関する研究 (分担: 多賀谷昌史)

8) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果の遺伝子背景に関する研究 J-STARS Genomics (分担: 多賀谷昌史)

9) 動脈硬化の多角的評価による脳卒中個別化治療開発に関する研究 (分担: 多賀谷昌史)

10) 厚生労働科学研究費補助金 「災害拠点病院における情報整理ツールの開発」に関する研究 (分担: 定光大海)

災害拠点病院は災害発生時に来院する多数の傷病者を一旦引き受け入れることになる。その後、自施設での対応、緊急性や重症度に応じた近隣施設への搬送、さらに広域搬送などの判断が求められる。この際、外傷診療に不慣れた医療従事者も支援に加わるため傷病者情報を簡便かつ確実に伝達するためのツールが不可欠となる。平成22年度は災害拠点病院において使用可能なカルテを試作し、実際の災害訓練で使用することでその実用性を検証した。

11) 厚生労働科学研究費補助金 「動脈硬化の多角的評価による脳卒中個別化治療開発に関する研究」 (分担: 多賀谷昌史)

動脈硬化の指標となるパラメータを多角的に評価し、特に細動脈硬化の指標として有用なものを探索するために、本年度は後ろ向きに過去2年間に少なくとも頸動脈エコー検査とMRIを施行した脳血管障害患者のデータを収集し、その解析を行った。100例の症例からデータ収集を行い、中央事務局へ提出した。今後これらの結果を解析して、前向き研究につなげる予定である。

12) 国立病院機構 EBM 推進のための大規模臨床研究 糖尿病性腎症発症進展阻止のための抗血小板薬 (ジピリダモール) の効果の検討 ATP-DN 試験

ジピリダモールの投与を高度医療として行うことに許可が得られず、医師主導治験としてまずパイロット研究を行う方針となった。

13) 国立病院機構共同臨床研究による EBM 推進のための大規模臨床研究 糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理方針の確立(HBP-DN) (分担: 東堂龍平)

腎症2期の2型糖尿病患者を対象を限定し、糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理方針、特に家庭血圧目標値設定の確立を目指す。

14) 平成21年度 NHO 共同臨床研究 学会ガイドラインに基づく原発性アルドステロン症 (PA) の診断と効果的な薬物治療法の確立(PHAS-J2) (分担: 東堂龍平)

高血圧患者において1) 学会 (高血圧・内分泌) ガイドライン (2009年) に準拠して PA を診断

することにより、学会ガイドラインの実施可能率、局在診断確定率の現状を検証、ガイドラインの普及、質的向上に不可欠なエビデンスを提供する。また 2) 手術非適応例におけるアルドステロン拮抗薬の併用が臓器障害、予後の観点から有用か否かを明らかにすると共に薬物治療の効果を外科治療と比較し、手術適応とならない例における標準的薬物治療を確立する。平成 22 年度は倫理審査を終えた後、エントリーを開始した。当院からは平成 22 年 12 月末までに 55 症例をエントリーした。

1 5) DPP-4 阻害薬による膵β細胞保護効果の検討 (分担：加藤研)

1 6) 三次救急施設における救命救急センター入院患者の発症の要因・背景 (主任：村田庄司)

平成 21 年度当院単施設でおこなった予備的研究をもとに、今年度は近畿管内の救命救急センターを設置している 3 病院を対象に調査数を増やし、発症の要因、背景を詳細に分析した。これらの結果を情報発信し、今後の地域救急医療対策策定の示唆としたい。

【2010 年度研究発表業績】

A-0

Inoue H., Nozawa T., Hirai T., Goto S., Origasa H., Shimada K., Uchiyama S., Hirabayashi T., Koretsune Y., Ono S., Hasegawa T., Sasagawa Y., Kaneko Y., Ikeda Y. Sex-Related Differences in the Risk Factor Profile and Medications of Patients With Atrial Fibrillation Recruited in J-TRACE Circ J Vol.74 No.4 p650-654 April 2010

Toyoda K., Yasaka M., Uchiyama S., Nagao T., Gotoh J., Nagata K., Koretsune Y., Sakamoto T., Iwade K., Yamamoto M., Takahashi J., Minematsu K. and on behalf of The Bleeding With Antithrombotic Therapy (BAT) Study Group Blood Pressure Levels and Bleeding Events During Antithrombotic Therapy. The Bleeding With Antithrombotic Therapy (BAT) Study Stroke Vol.41 p1440-1444 May 10 2010

Shinohara Y., Katayama Y., Uchiyama S., Yamaguchi T., Handa S., Matsuoka K., Ohashi Y., Tanahashi N., Yamamoto H., Genka C., Kitagawa Y., Kusuoka H., Nishimaru K., Tsushima M., Koretsune Y., Sawada T., Hamada C., for the CSPS 2 group Lancet Neurol 2010;Published online September 11,2010 DOI:10.1016/S1474-4422(10)70198-8

Ogawa.S., Aizawa Y., Atarashi H., Inoue H., Kamakura S., Koretsune Y., Kumagai K., Mitamura H., Okumura K., Sugi K., Yamashita T., Yasaka M. Guidelines for Pharmacotherapy of Atrial Fibrillation(JCS 2008) Circ J Vol.74 No.11 p2479-2500 November 2010

Yamashita T., Inoue H., Okumura K., Komada I., Aizawa Y., Atarashi H., Ohe T., Ohtsu H., Kato T., Kamakura S., Kumagai K., Kurachi Y., Koretsune Y., Saikawa T., Sakurai M., Sato T., Sugi K., Nakaya H., Hirai M., Hirayama A., Fukatani M., Mitamura H., Yamazaki T., Watanabe E., and Ogawa S on behalf of the J-RHYTHM II Investigators Randomized trial of angiotensin II-receptor blocker vs. dihydropyridine calcium channel blocker in the treatment of paroxysmal atrial fibrillation with hypertension (J-RHYTHM II Study) Europace doi:10.1093/europace/euq439 December 10 2010

A-1

山口武典 橋本洋一郎 奥村謙 是恒之宏 中山博文 矢坂正弘 山下武志 心房細動脳梗塞予防 Q&A 社団法人日本脳卒中協会 2011.2

A-2

是恒之宏 心房細動患者に対する新規経口抗トロンビン薬の新たなエビデンス 循環器 中外医学社 p210-215 2011.1.25

是恒之宏 心房細動 抗血栓療法（適応とコントロール法）について ガイドライン／ガイダンス 不整脈 日本医事新報社 p29-34 2011.3.3

是恒之宏 第Ⅱ章薬物編 2.抗凝固薬 ワルファリン 抗血栓薬の最前線ー基礎と臨床ー 医薬ジャーナル社 p91-97 2011.3.15

是恒之宏 2章 各種病態における抗血栓療法 3.心房細動 抗血栓療法ハンドブック 中外医学社 p45-53 2011.3.25

A-4

是恒之宏 JAST 研究 Trombosis Scope vol.1 p9 April 2010

奥村謙 櫻井正之 八木哲夫 小松隆 是恒之宏 心房細動に対する抗凝固療法の重要性 Pharma Medica メディカルレビュー社 Vol.28 No.4 p195-200 2010.4.10

是恒之宏 心房細動の抗凝固療法：ワルファリン治療のコツとは何か 治療 南山堂 Vol.92 p1492-1503 2010.05

小川久雄 橋本洋一郎 岡田靖 是恒之宏 心原性脳塞栓症予防に対する抗凝固療法の重要性 Pharma Medica メディカルレビュー社 Vol.28 No.5 p75-80 2010.4

是恒之宏 ワルファリン療法における INR コントロールの重要性ーTTR からみた大規模臨床試験の意義ー Pharma Medica メディカルレビュー社 Vol.28 No.5 p159-163 2010.5

是恒之宏 ワルファリン抵抗性への反応 抗血栓療法のノウハウとピットフォール 南江堂 p203-205 2010.6.5

是恒之宏 注意すべき薬剤・食品との相互作用 抗血栓療法のノウハウとピットフォール 南江堂 p214-221 2010.6.5

是恒之宏 心房細動の抗凝固療法：ワルファリン治療のコツは何か 治療 Vol.92 No.05 p1492-1497 2010.05

是恒之宏 抗血栓療法の Real world と経口 New anticoagulant の展望 心電図 日本心電学会
Vol.30 No.2 p174-177 2010.05

是恒之宏 心原性脳塞栓症における一次予防の重要性 八王子市医師会報 八王子市医師会
No.265(451号) p4 2010.4.15

後藤信哉 河村朗夫 是恒之宏 一色高明 今後の抗血栓療法を考える 治療学 ライフサイエ
ンス出版 Vol.44 No.6 p69-76 2010.06

是恒之宏 心原性脳塞栓症における一次予防の重要性 Therapeutic Research ライフサイエンス出
版 Vol.31 No.6 p843-846 2010.06

是恒之宏 心原性塞栓症予防薬の新展開 医学のあゆみ 医学薬出版株式会社 vol.234 No.6
p269-694 2010.8.7

小林洋一 新博次 杉薫 是恒之宏 心房細動に対する抗凝固療法を考える Pharma Medica メ
ディカルレビュー社 Vol.28 No.8 p67-72 2010.8

相澤義房 高月聖志 是恒之宏 庭野慎一 心房細動患者における抗凝固療法の重要性 Pharma
Medica メディカルレビュー社 Vol.28 No.9 p89-94 2010.9

是恒之宏 TTR (Time in Therapeutic Range) Thrombosis Scope 株式会社インターサイエンス社
p5-6 Vol.2 October 2010

井上博 内山真一郎 是恒之宏 矢坂正弘 山下武志 心原性脳塞栓症予防の新たな可能性
Thrombosis Scope 株式会社インターサイエンス社 p11-14 Vol.2 October 2010

是恒之宏 2.病態に応じた循環器薬の使い方とコツ 抗凝固薬 Heart View メジカルビュー社
p143-146 2010.11

是恒之宏 心房細動に対する血栓塞栓予防治療：抗血小板薬と抗凝固薬 Medical Practice 文光堂
Vol.27 No.11 p1912-1917 2010.11

新博次 奥村謙 是恒之宏 橋本洋一郎 心原性脳塞栓症を考えるー抗凝固療法の現状と展望ー
Pharma Medica メディカルレビュー社 Vol.28 No.11 p87-92 2010.11

是恒之宏 抗凝固療法の合併症としての出血 J-RHYTHM Registry News J-RHYTHM Registry 事
務局 No.19 p1-3 2010.11

是恒之宏 新規開発中の薬物療法 Heart View メジカルビュー社 p84-85 2011.2

是恒之宏 新しい抗凝固薬の開発と塞栓予防 CIRCULATION Up-to-Date メディカ出版 p50-55
Vol.6 2011.1

是恒之宏 ワルファリンコントロールの評価 (Time in Therapeutic Range) 日本医師会雑誌 日本
医師会 p2349 第139巻 第11号 2011.2

奥村謙 内山真一郎 棚橋紀夫 是恒之宏 なぜ今、心房細動なのか～心房細動を見過ごしてはな
らない～ Clotman Press p2-10 No.1 2011.2

是恒之宏 心房細動への抗血栓療法ーワルファリンコントロールの維持不可欠ー Japan Medicine
Monthly 株式会社じほう p10 March 2011

是恒之宏 身近になる抗凝固療法 日経メディカル 日経BP社 p64-66 2011.3

是恒之宏 それでもワルファリン：Good old drug 循環器内科 科学評論社 p117-122 Vol.69 No.2
Feb.2011

A-6

是恒之宏 身近になる抗凝固療法 抗血栓療法に新展開 日経メディカルオンライン 日経メデ
ィカル p1-3 2011.3.24

B-2

Koretsune Y. Current Status and Prospects for the treatment of Atrial Fibrillation XXth World Congress
of the International Society for Heart Research May 15 2010 Kyoto International Conference Center
KYOTO

Koretsune Y. Current status for anticoagulant treatment in AF patients XXth World Congress of the
International Society for Heart Research May 16 2010 Kyoto International Conference Center KYOTO

B-3

是恒之宏 心房細動における抗血栓ーガイドライン 2008 とその後の展開ー 第7回循環器連携パ
ス研究会 平成22年4月8日 リーガロイヤルホテル堺 大阪府

是恒之宏 凝固第Xa因子の病態への関与とその制御(循環器専門の立場から) 第33回日本血栓
止血学会学術集会・第3回 Bayer Thrombosis Seminar 平成22年4月22日 城山観光ホテル 鹿児
島県

是恒之宏 治験臨床研究への取り組み～investigatorの立場から～ 国立病院機構南京都病院治験

セミナー 平成 22 年 6 月 11 日 南京都病院 京都府

是恒之宏 日本における心房細動患者に対する抗血栓療法の現状と課題 第 1 回 National AF Summit 平成 22 年 6 月 19 日 帝国ホテル 東京都

是恒之宏 Af における抗血栓療法～現状と展望～ 第 2 回城南 Circulation 研究会 平成 22 年 7 月 2 日 目黒雅叙園 東京都

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法－現状と展望－ 第 1 回新潟血栓・抗凝固フォーラム 平成 22 年 7 月 16 日 ホテル日航新潟 新潟県

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法－ガイドライン 2008 とその後の展開－ 第 38 回東海臨床心臓病談話会 平成 22 年 7 月 24 日 名古屋マリOTTアソシアホテル 愛知県

是恒之宏 新規抗血栓薬の新展開 第 25 回犬山不整脈カンファランス 平成 22 年 8 月 21 日 ウェスティンナゴヤキャッスルホテル 愛知県

是恒之宏 心房細動に対する抗血栓療法の update 第 217 回日本循環器学会関東甲信越地方会 平成 22 年 9 月 11 日 東京ステーションコンファレンス 東京都

是恒之宏 心房細動に対する抗血栓療法の現状と課題 心房細動治療のパラダイムシフトー新たな抗凝固薬の足音が聞こえてくるー 第 58 回日本心臓病学会学術集会 平成 22 年 9 月 19 日 東京国際フォーラム 東京都

是恒之宏 抗血栓療法の実践と問題点 第 27 回日本心電学会学術集会共催セミナー 平成 22 年 10 月 9 日 ソレイユ 大分県

是恒之宏 いっしょに考えよう抗血栓予防対策～心臓から血栓が飛ぶ大きな脳梗塞～ 大阪ハートクラブ市民健康講座 平成 22 年 11 月 1 日 阪急ターミナルスクエア 大阪府

是恒之宏 上級 CRC への期待－臨床研究に対応するために－ 平成 22 年度上級者臨床研究コーディネーター養成研修 平成 22 年 11 月 4 日 独立行政法人国立国際医療研究センター 東京都

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法－最近の話題－ 第 14 回血液サラサラ研究会 平成 22 年 11 月 15 日 ホテルモントレ仙台 宮城県

是恒之宏 シンポジウム 1「塞栓源検索と塞栓症予防」①心房細動 第 13 回日本栓子検出と治療学会 平成 22 年 11 月 19 日 アクロス福岡 福岡県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法 不整脈薬物療法の up to date 平成 22 年 11 月 27 日 兵

庫県農業会館 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法 Thrombosis Forum 平成 22 年 12 月 3 日 ホテルサンダーソン 群馬県

是恒之宏 上級 CRC への期待－臨床研究に対応するために－ 平成 22 年度上級者臨床研究コーディネーター養成研修 平成 23 年 1 月 20 日 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 大阪府

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 AF Summit 平成 23 年 2 月 2 日 スイスホテル南海大阪 大阪府

是恒之宏 最新の心房細動治療と病診連携のあり方 心房細動治療学術講演会 平成 23 年 2 月 10 日 姫路赤十字病院 兵庫県

是恒之宏 心房細動に対する抗血栓療法の新展開－着実にその足音が聞こえる－ 第 22 回滋賀不整脈研究会 平成 23 年 2 月 12 日 琵琶湖ホテル 滋賀県

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 姫路 AF Summit 平成 23 年 2 月 17 日 姫路キャッスルグランヴィオリホテル 兵庫県

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 AF Expert Meeting 平成 23 年 2 月 24 日 神戸ポートピアホテル 兵庫県

是恒之宏 高齢者高血圧の病態と治療を考える－脳梗塞予防のエビデンス；インターベンションと抗血栓療法－ 第 9 回高齢者高血圧の病態と治療を考えるシンポジウム－脳梗塞予防の内科的・外科的エビデンス－ 平成 23 年 2 月 25 日 ホテルメトロポリタン仙台 宮城県

是恒之宏 心房細動患者への抗凝固療法におけるプラザキサの位置づけ 抗凝固療法 Up to Date Web Conference 平成 23 年 3 月 1 日 スイスホテル南海大阪 大阪府

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 AF Summit～心房細動治療における抗凝固療法の新たな展開～ 平成 23 年 3 月 11 日 セントラルホテル佐世保 長崎県

是恒之宏 野村昌作 平田明生 心房細動治療における抗凝固療法の新たな展開 平成 23 年 3 月 16 日 ホテルグランヴィア大阪 大阪府

是恒之宏 Current Japanese Guideline and the New Era of the Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation 日本循環器学会 平成 23 年 3 月 20 日パシフィコ横浜 神奈川県

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 AF Summit～心房細動治療における

抗凝固療法の新たな展開～ 平成 23 年 3 月 23 日 ホテルニューオータニ大阪 大阪府

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 倉敷 AF Summit～心房細動治療における抗凝固療法の新たな展開～ 平成 23 年 3 月 30 日 倉敷国際ホテル 岡山県

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防における抗凝固療法の重要性 AF Summit～心房細動治療における抗凝固療法の新たな展開～ 平成 23 年 3 月 31 日 たかつき京都ホテル 大阪府

B-4

谷口達典 乾礼興 宮崎宏一 濱野剛 宇都宮紫 中川彰人 北田博一 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子 廣岡慶治 川口義廣 是恒之宏 楠岡英雄 安村良男 高度低心機能、肝機能低下を有する両側腎動脈狭窄症に対しての stages PTR A が著効した一例 平成 22 年 6 月 5 日 帝国ホテル 東京都

山戸昌樹 北田博一 小出政雄 佐々木典子 廣岡慶治 川口義廣 安村良男 是恒之宏 楠岡英雄 急性心不全の病態による肝機能の推移の相違 第 14 回日本心不全学会学術集会 平成 22 年 9 月 7 日 京王プラザホテル 東京

谷口達典 三浦弘之 荒田夕佳 乾礼興 宮崎宏一 濱野剛 北田博一 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子 廣岡慶治 川口義廣 是恒之宏 楠岡英雄 安村良男 急性心不全患者における腹部インピーダンス測定による貯留水分量の定量化の試み 第 58 回日本心臓病学会学術集会 平成 22 年 9 月 17 日 東京国際フォーラム 東京都

山戸昌樹 乾礼興 宮崎宏一 濱野剛 宇都宮紫 谷口達典 濱野剛 中川彰人 北田博一 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子 廣岡慶治 川口義廣 是恒之宏 楠岡英雄 安村良男 急性心不全患者における容量負荷と腎機能との関係 第 58 回日本心臓病学会学術集会 平成 22 年 9 月 17 日 東京国際フォーラム 東京都

坂本泰一 森下典子 石山薫 小野恭子 木島かおり 北川智子 柚本育世 樋口早映子 多和昭雄 是恒之宏 楠岡英雄 IRB での安全情報の審議改善への取り組み 第 31 回日本臨床薬理学会年会 平成 22 年 12 月 1～3 日 国立京都国際会館 京都府

B-6

乾礼興 三浦弘之 宮崎宏一 谷口達典 濱野剛 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子 廣岡慶治 楠岡英雄 是恒之宏 安村良男 レートコントロールにて著名な左室機能改善を認めた頻脈誘発性心筋症の一例 第 110 回日本循環器学会近畿地方会 平成 22 年 11 月 27 日 国立京都国際会館 京都府

小出政雄 安村良男 廣岡慶治 佐々木典子 山戸昌樹 北田博一 谷口達典 濱野剛 宮崎宏一 乾礼興 三浦弘之 是恒之宏 定光大海 池田義彦 持発性心室細動患者の心筋病理所見

第 110 回日本循環器学会近畿地方会 平成 22 年 11 月 27 日 国立京都国際会館 京都府

坂口大起 三浦弘之 乾礼興 宮崎宏一 濱野剛 谷口達典 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子
廣岡慶治 川口義廣 楠岡英雄 安村良男 是恒之宏 乳癌に対してパクリタキセル投与中に突
然の心室細動を発症した一例 第 110 回日本循環器学会近畿地方会 平成 22 年 11 月 27 日 国立
京都国際会館 京都府

宮崎宏一 三浦弘之 乾礼興 谷口達典 濱野剛 小出政雄 山戸昌樹 佐々木典子 廣岡慶治
楠岡英雄 安村良男 是恒之宏 血液透析導入後にカルベジロール中止にても顕著な左室収縮能
の改善を維持している一症例 第 110 回日本循環器学会近畿地方会 平成 22 年 11 月 27 日 国立
京都国際会館 京都府

B-7

是恒之宏 長尾毅彦 村崎かがり 矢坂正弘 心房細動患者の脳塞栓症予防はどうあるべきか？
ー現状と展望ー Dabigatran etexilate 第Ⅲ相試験 (RE-LY 試験) 研究者会議 平成 22 年 4 月 10 日
東京コンファレンスセンター・品川 東京都

是恒之宏 Edoxaban 最新情報 (整形外科領域第Ⅲ相臨床試験結果報告) ENGAGE AF-TIMI 48 中
間報告会 平成 22 年 7 月 31 日 ウェスティンホテル東京 東京都

是恒之宏 治験実施上の留意点ーINR 目標値管理についてー ENGAGE AF-TIMI 48 中間報告会
平成 22 年 7 月 31 日 ウェスティンホテル東京 東京都